

第 25 回参議院議員選挙結果を踏まえての J R 連合コメント

2019年7月22日
日本鉄道労働組合連合会
(J R 連合)

7月21日に投開票が行われた第25回参議院議員選挙において、ご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに御礼申し上げます。また、推薦候補の必勝にむけて献身的に奮闘されたすべての関係者に対しても心から感謝を申し上げます。

国会・国民軽視を続けてきた安倍一強政治の継続に是非を問う今回の選挙において、自民党は改選66議席を下回り、自民・公明・維新の改憲勢力は、憲法改正案の発議に必要な議員定数の3分の2の議席を割り込むこととなった。その一方で、野党間の選挙協力などの遅れもあり、政権交代可能な政治体制づくりの前哨戦として十分にまとまり切れなかったことは極めて遺憾である。

また、投票率は48.8%（前回54.7%）で、戦後最低を記録した95年に次ぐ、2番目の低さとなった。政治への不信感からか関心が高まらず、投票行動に繋がっていない状況については、あらためて政党および政治家一人ひとりが、また、支援する連合をはじめ各労働組合も、そして、国民一人ひとりもが、厳粛に受け止めるべきである。

J R 連合は、選挙区6名と比例区4名の最重点・重点候補者を推薦し、全員当選にむけて取り組んできた。特に、最重点候補である静岡県選挙区の「J R 連合国会議員懇談会」会長の榛葉賀津也氏、さらには千葉県選挙区で同幹事の長浜博行氏を全力で取り組み、激戦を制した。また、重点候補として「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する羽田雄一郎氏（長野県）、大塚耕平氏（愛知県）、森本真治氏（広島県）、野田国義氏（福岡県）の4名を支援し、4名全員が当選を果たした。また、比例区においては4名を重点候補として取り組み、浜野喜史氏（電力総連）、田村麻美氏（U A ゼンセン）、森屋隆氏（私鉄総連）の3名が厳しい選挙戦を制した。しかしながら、石上俊雄氏（電機連合）は残念ながら落選することとなった。

今後、当選を果たした9名が、国政の場でその実力を縦横に発揮されることを期待したい。また、今回の選挙結果を真摯に受け止めるとともに、政治活動の意義の浸透や、さらなる政治への参画意識の醸成などについて、引き続き組織内において議論を深めていくこととする。

労働法制、社会保障、消費増税、憲法改正など国民・働く者の生活に直結するような課題が山積している中、さらには、不都合な事実が明らかにされない今の政治を正すためには、働く者の声を代弁する政治勢力との連携は必要不可欠であり、あるべき民主主義の実現には野党勢力の結集が必要不可欠である。

J R 連合は、国政の場において、国民に対して真に筋を通す政治と、将来を見据えた真っ当な政策論議が行われるように、今後の政界の動向を注視しつつ、議員懇談会および議員フォーラムの体制を見直すとともに体制強化を図っていく。そして、引き続き J R 連合が抱える組織課題、政策課題の解決にむけて取り組んでいくこととする。

以上